

6月下旬～9月下旬の各地区の活動

地区	活動内容
世田米	6月 委員会議
	7月 フラワー部会草刈り作業
	8月 世田米いきいきなつまつり
	9月 視察研修「宮古の旅」 ウォーキング講座 第1回
大股	6月 買い物ツアー
	7月 買い物ツアー
	8月 役員会 買い物ツアー
	復活！盆踊り大会
	9月 敬老会 記念品贈呈

地区	活動内容
下有住	7月 歴史講演会 part5 講師：甘竹勝郎先生 桜団地の環境整備 そばの種まき しもありす夕涼み会
	9月 新・地元学 第1回
	7月 楽しみ部会 視察研修
上有住	8月 役員会（チャレンジ部会） 役員会（販わい部会）
	7月 桜並木・地区公民館周辺の環境整備
五葉	8月 盆踊り大会 役員会
	9月 梅の木植樹地の草刈り作業

編集後記・コラム

～自分たちのペースで地域を考える～

今年度は、自分たちの地域の未来について自分たちで考える動きが活発化しています。その例として、五葉地区では住民同士の支え合いによる移動支援についての学びが始まりました。下有住地区ではこの先の活動を進めるために地域の現状を見つめ直す「新・地元学」が始まりました。

両地区とも、地域の課題に対して自分たちは何ができるか、将来の地域づくりを展開するために現状はどうなっているか、といった問いを立て、それに答えるために自分たちで解決方法を模索し、まずは地元や他の事例などから学ぼうとしています。また、こうした学びを役員や地域の方々と共にすることで、課題感を共有したり、各人の想いを交わす機会ともなっています。

解決策を急いで見つけるのではなく、自分たちのペースで地域の実情を捉えて、自分たちでできる活動を見出そうとする動きであるように思います。

下有住の「新・地元学」では、「地域づくりは人づくり」という参加者の発言がありました。人々が時間をかけて考えることでコミュニティが醸成され、次の世代へと続いていくことを願っています。



下有住地区で9月に白い花を咲かせた蕎麦畑



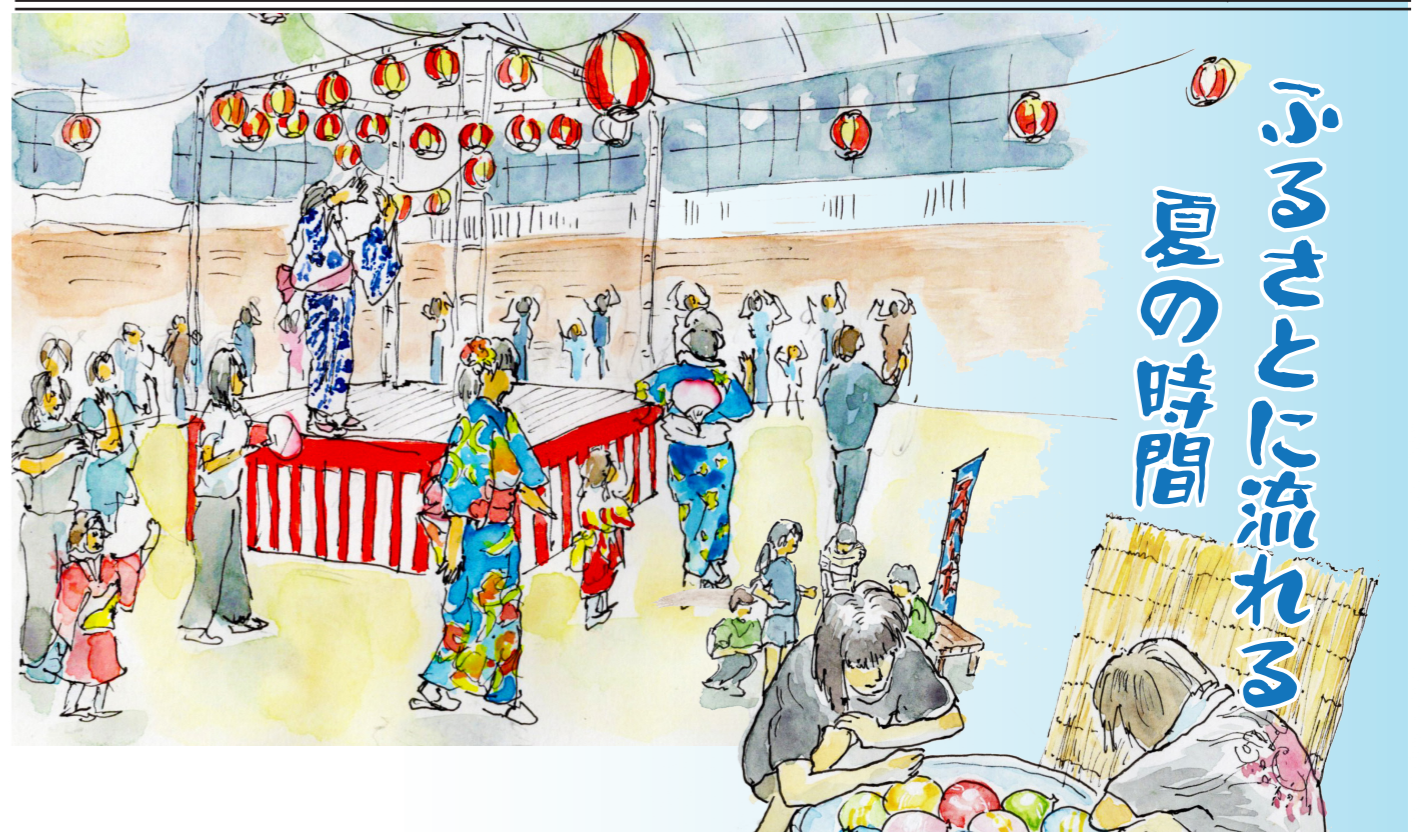
「新・地元学」では、地元のそば粉や野菜を使ったピザが振舞われました。



「小さな拠点づくり」5地区の活動を伝える

五つ星ニュース

第11号



帰省した家族と一緒に味わう住田の夏

今年の夏も、町内の各地では、熱気あふれる祭りのイベントが開催されました。世田米のいきいきなつまつり、大股や五葉の盆踊りでは、帰省中の方も参加し、大盛況となりました。久しぶりにふるさとに帰ってきた人たちにとっては、住田の夏を味わう時間となったようです。

また、下有住の夕涼み会のように、子どもたちが多く参加する行事では、縁日などの夏らしい企画もたくさん。地域の大人たちに混じって中学生・高校生たちも運営に加わり、年に一度の夏を子どもたちと一緒に思いっきり楽しんでいました。

各地区で行われたこうした行事は、子どもたちにとっても、帰省する方々にとっても、

挿絵 五葉地区の盆踊り（木村直紀）

ふるさと住田を感じてもらえる機会になっていると思います。



五葉地区の盆踊りの様子（ビンゴの数字を引き、当選者が現れるまで、踊りが続けられました）

住田町「小さな拠点づくり」の活動を伝える 五つ星ニュース 第11号 2025年9月 発行

【発行】

一般社団法人邑サポート
住田町世田米字世田米駅 105-1
TEL 070-2021-6142

【編集協力】

住田町教育委員会
住田町世田米字川向 88-1
TEL 0192-46-3863

各地区の活動（6月下旬～9月下旬）

世田米いきいきづくり

世田米いきいきなまつり

まちや世田米駅で開催された世田米いきいきなまつりは、子供から大人まで楽しめるようにと出し物を工夫し、多くの人で賑わいました。

今回も委員の皆さん同士のチームワークが光り、中学生・高校生のほか、町内で働く外国人も運営に加わり、多様な世代のみんなが作るイベントとして成長しつつあります。真夏の暑さも思い出の一つになりました。



今年も住田高校アート部が看板をデザイン



住田高校ブースでは子供が遊べるミニゲームも

視察研修～宮古の旅～

観光や物産、景観などを体感しながら、地区民同士が交流する視察研修として、今年は宮古地区を訪れました。

当日予定していた遊覧船が臨時欠航するなどのアクシデントがありましたが、旅程を組み直して違った楽しみを見出しました。広い海と空のもと、参加者同士のコミュニケーションも活発で輝いていました。



魚菜市場では談笑しながらのお買い物

スマイル大股地区

復活！盆踊り

コロナ禍で休止が続いていた大股地区の盆踊り。スマイル大股の役員会で議論を重ね、この夏、6年ぶりに復活しました。準備には帰省された方々も参加され、運営には社会福祉協議会のスタッフ、役場の若手職員も加わって、地元の方々と混ざりながら開催を支えました。

浴衣姿で訪れる方々も多く、復活した盆踊りを楽しんでいたようでした。



室内での開催でもやぐらをみんなで建てました

下有住いきいき活動協議会

そばの種まき

食育、遊休農地活用、住民交流と、多面的な意味合いのある下有住のそば事業。夏は種まきの季節です。今年の夏は日照りが続いて降雨が少なく、種まきに適したタイミングを図りながらの実施となりました。

種を蒔いた後も有志の方々が散水などの手入れを重ね、晩夏には白いきれいな花を咲かせました。収穫が楽しみです。



小学生による種まきは、暑さ対策のため夕方の開催となりました

おたのしみ夕涼み会

毎年恒例の夕涼み会は、流しゼリーからスタート。クライマックスの魚のつかみ取りでは、小さな子どもたちに中高生がサポートしてあげるなど、学年を超えた交流もありました。

平日に開催している夕涼み会では、夏休み中の中高生は大切な担い手であり、小学生たちも将来は運営側として活躍してくれることを期待しています。



子供たちを楽しんでもらえるよう中学生たちも活躍します

新・地元学

25年前に月山親子会が中心となって実施した「地元学」。その後、脈々と育てられてきた地域の姿を改めて見つめ直す「新・地元学」が開催されました。

地元で長年住んでいても行ったことのない場所も多いとの意見や、社会や環境の変化を指摘する意見もあり、参加した人同士の地域への想いを共有する時間となりました。今後も継続して開催する予定です。



保育園児にもつかみ取りを優しくサポートする高校生たち



子供たちも交えた交流についての意見が多く出されました

夢かがやく上有住

楽しみ部会 視察研修

夢かがやく上有住では、部会の委員の方々が中心となって視察研修の企画調整を進め、古民家を活用した遠野福祉事業所と「カフェワノサト」、住田遠野ウィンドファームなどを見学しました。

参加された方々は、人・場所・自然という地域の活力を形にしている場所が近隣にあり、そこには携わる人々の努力があることを学んだようでした。



古民家を活用した福祉事業所の取り組みを熱心に聞く皆さん



風力発電のブレードの大きさを体験しました

五葉地域づくり委員会

五葉地区の環境整備

毎年恒例となっている五葉の環境整備。7月には公民館周辺と桜並木、9月には梅の木植樹地の草刈り等が進められました。

集合時間になると刈払い機や薬剤散布機などを詰んだ軽トラが大集合。簡単な打合せのあと、皆さんは自分の役割を定めて、それぞれの場所で作業を始めました。その自主的に動く輪の中に、今年からは役場の若手職員も加わり、みるみるうちにきれいになっていきました。



草刈りの細かな手作業など、地域の皆さんの技術が集まります



獣害対策をしながら大切に育てている梅の木

五葉地区の盆踊り

五葉地区の今年の盆踊り大会には115名が参加し、昨年以上の盛り上がりを見せました。帰省中の人も多く参加したようです。踊ってはビンゴの数字をひき、当選者がいなければまた踊る、という緊張感が場を盛り上げました。老いも若きも浴衣姿になって輪になり、用意した景品が尽きるまで、踊りとゲームのお楽しみが続きました。



やぐらを囲んで、踊りに、ゲームにと、賑やかな時間が続きました